

令和4年度 広報委員会 行政視察報告書

1. 視察日程 5年1月16日(月)～1月16日(月)

2. 視察先及び視察内容

(1) 神奈川県大和市(1月16日)

図書館と広報について

(2) 神奈川県藤沢市(1月16日)

議会カフェについて

3. 参加者

委員長 林 義浩

副委員長 神野 義孝

委員 杉山 護 永井 誠一 小林 恵美子 高木 理文

中島 宏明 川上 秀範 辻川 公子

事務局 主幹 桐生 守 副主任 齋藤 瑛 登

4. 視察先対応者

部署・役職名等 大和市文化創造拠点シリウス やまとみらい事務局 総務 神山 百合子

部署・役職名等 大和市文化創造拠点シリウス やまとみらい事務局 統括責任者 片山 鑛藏

部署・役職名等 大和市役所 図書・学び交流課 大紺 和由 様

部署・役職名等 藤沢市議会議員 竹村 雅夫 様

部署・役職名等 藤沢市議会事務局 局長 藤本 広巳

部署・役職名等 藤沢市議会事務局 課長 浅上 修嗣

部署・役職名等 藤沢市議会事務局 主査 根本 裕史

5. 視察内容

■ 『図書館と議会広報について』

5年1月16日（月） 10:00～12:00 於：シリウス図書館

≪視察研修の目的≫

図書館をどのように議会広報に利用しているのか見学する。

≪視察先の概要≫

大和市の大きさは、縦9km横3km人口24万人余りのコンパクトシティにおいて、シリウス図書館は平成28年11月3日開園以来令和3年8月で1500万人の入場者達成。小田急線、相模線、東急線と3路線あり市内どこにいても歩いて20分圏内に駅がある。また、市外からの来館者も多数おり、来館者の1/3が市外2/3が市内平日6,000～7,000人土曜日は10,000人余り来館。シリウスは文化創造拠点として位置づけられており、そのほか6カ所の拠点があります

≪視察内容≫

大和市の大きさは、縦9km横3km人口24万人余りのコンパクトシティにおいて、シリウス図書館は平成28年11月3日開園以来令和3年8月で1500万人の入場者が達成されました。その理由の一つは鉄道網が豊かであることです。小田急線、相模線、東急線と3路線あり市内どこにいても歩いて20分圏内に駅があるということで、来館者はほとんど徒歩ということでした。また、市外からの来館者も多数おります。来館者の1/3が市外2/3が市内平日6,000～7,000人土曜日は10,000人余り来館されるようです。シリウスは文化創造拠点として位置づけられており、そのほかに「つきみ野学習センター」「中央林間図書館」「市民交流拠点ポラリス」「桜ヶ丘学習センター」「渋谷学習センター」「渋谷図書館」があります。これらの施設に6つの指定管理団体が入っており、切磋琢磨しサービスの向上を図っています。管理者間では「建物にたよらないソフトの充実」「指定管理が一社だけだとイマイチ」「自分たちで考えて発展する」という考えで成り立っておりますが、お互いの連携もしっかりとっており、全体のミーティングも定期的に行っているようです。

シリウス図書館は“やまとみらい”と呼ばれる指定管理者が管理をしており、「サードプレイス」を理念に掲げております。

※サードプレイスとは、スターバックスの理念で、人生において一番時間をかけるのが家庭。二番目は仕事。そして、3番目に行く場所がスターバックス。つまり、毎日でも通いたくなる場所。居場所。という意味を込めてサードプレイスといいます。

シリウス図書館は、市の要請で、全館図書館というコンセプトがあり、

1階は音響が良い1007席ホールと喫茶、エレベーターの斜めに上がるエレベータ下にも本がずらりと並んでいました。

2階は交流ラウンジとして8.5席を有料にし、無線LAN有線LAN私用の印刷もできるようになっていました。

3階はこども図書館と有料の親子スペースがあり、0から2歳児までが無料相談室があり予約制の保育施設もあります。

4階は健康都市として健康コーナー健康テラスがあり、健康福祉部による予約制の無料相談もありました。

5階は読書専門でこの階だけが物音さえも気を付ける静かに過ごすべきフロアになっていました。

6階はフリースペースにしてありました。このフリースペースを使い独居老人のための行事を月に一回開催し、フレイル対策をしているようです。この階は食事もでき町が一望できる会となっていました。

本の回収は4階で一括して行い、市内各所に置かれている出先機関からこちらに運ばれてきます。本には一冊ずつICタグが付いており自動分配で、元の棚に配置しやすいようにオートメーションで人件費を抑えてありました。予約もスマホから簡単にでき、IT化がかなり進んでいました。



考察

参加議員の全員がシリウス図書館の感想についてはとても感動した。IT化が進んでいる。憩いの場として定借している。広報の方法も図書館だけでなく、市内四つの施設のイベント情報が掲載され、イベントも盛りだくさんに感じられる。市民の文化の象徴として完全に受け入れられ、仲間と集い、学ぶ生涯学習などでも本だけでなく施設、イベントなどの工夫もされているという感想でした。

さて、図書館と広報公聴の関係ですが、現在御殿場市では、議会だよりを図書館に置き、一組をバックナンバーにし、残りを配布しております。図書館と議会とのかかわり方はこの程度となっているのが現状です。新図書館が設立されると、来訪しやすい図書館となる予定です。図書館において議会のライブ配信や、セミナーを開催できる部屋やスペースにて、議会報告会の開催も考えられます。また、議会カフェの会場も新図書館のスペースを利用し、新図書館を通して議会や議員と市民の垣根を少しでも低くできたらと考えます。

■ 『議会カフェについて』

5年1月16日（月） 14:00～16:00 於：藤沢市議会

〈視察研修の目的〉

広報委員会の広聴機能を強化するため、藤沢市議会の議会報告会・意見交換会を発展させ、ワールド・カフェ形式の意見交換会を行っている先進事例を研修して、議会カフェの具体的な取り組みの資とする。

〈視察先の概要〉

藤沢市の状況：人口443,832人(R5.1.1)、面積69,56km²であり、御殿場市の人口の5.2倍を誇る。藤沢市は神奈川県南部中央に位置し、北は標高40mほどの相模原台地、南は湘南砂丘と呼ばれる平地に二分される。東京から50km圏内にあり、JR、小田急、江の島電鉄、湘南モトル等交通の便に恵まれている。また、江戸時代に東海道五十三次の6番目の宿場として藤沢宿が設置され、江の島詣の足場として賑わった。

藤沢市議会は、議員数は36名で、オンラインへの早期取り組み、議場の資料提示用の大型モニターの設置、子どもと一緒に傍聴できる防音傍聴ルームなど先進的な取り組みが行われている。

《視察内容》

●議会カフェに至った経緯

・平成25年4月1日に藤沢市議会基本条例が施行され、条例に基づき広報広聴委員会を設置した。特に「広聴」を位置付けて市民の意見を聞く取り組みとして「議会報告会・意見交換会」を行ってきたが、2年間実践する中で参加者の減少、市民と議会の対決ムードや建設的議論の難しさ、アンケートで参加者の満足度が50%以下という課題が明らかになった。

・専門家の助言を受け、広報広聴委員会の中で協議する中で生まれた新たな方向が「カフェトーク」であり、ワールド・カフェ形式を採用して、和やかに意見交換を行える場を提供していく事にした。

・講師は牧瀬稔氏（関東学院大学法学部地域創生学科準教授）で開始当初から助言を行い、学生も一緒に参加する体制になっている。

●意見の反映状況について

・集約結果と提言等をまとめ、市長に提出（第1、2回：投票率の向上について、第3回：藤沢の知名度向上について、第4回：藤沢の誇り、愛着度アップについて、第5回：ふじさわのマニフェストをつくろう！、令和2年 Online カフェトークふじさわ：コロナ禍の各種課題）

・集約した意見をまとめ、市長に提出（令和3年 Online カフェトークふじさわ：環境、公園）

●議会カフェの継続の工夫について（長く続けるコツ）

・概ね年1回の無理のない計画

・市民の関心のテーマを選定し、大学のファシリテーター、ゼミ生等幅広い意見の採用

・毎回アンケートを実施、分析し課題を次回に反映等

●開かれた議会への効果について

○第1～5回のアンケート結果から若い世代、女性、満足度が大幅に向上し、開かれた議会に大きな効果がみられる。

・参加者の年齢層：若い世代の参加者が増え、幅広い年齢層の参加により実施できた。特に10～20歳代の参加が平均15%越え（カフェトーク実施前の2%から向上）

・参加者の性別：女性の参加者が30～50%（カフェトーク実施前の23%から向上）

・参加者の満足度：第5回の「満足」と「少し満足」の合計が88%（カフェトーク実施前の28%から大幅に向上）

●議会カフェの手法についての詳細（効果的な立ち上げ方等）

○開催手法：ワールド・カフェ形式、コロナ禍ではオンライン形式

○テーマ設定：興味をもってもらえるテーマ

○会場の設定：テーマに沿った雰囲気づくり

○募集方法：テーマ別に対象を絞って周知したり、公募

○周知、広報：メディアへのプレスリリース、ポスター、チラシ、ホームページ等

○司会進行：専門のファシリテーターを招き、進行役を大学ゼミ生に依頼

・まとめの時間を増やす等余裕を持った時間配分

・参加者の共通理解を図るため、基調講演を実施

○実施後：提言書の提出及び報告書の公開、アンケート調査による改善（年齢層、性別、満足度等）

●議会カフェを立ち上げて良かった点及び気を付けた方が良い点

○良かった点：若い世代、女性の参加者が増え、幅広い年齢層が参加し、満足度が大幅に向上

○気を付けた方が良い点：実施後、提言書を提出するが、市民の声に主眼をおく。

・小・中学生が参加する場合は分かりやすい言葉に注意する。

※ワールド・カフェ形式とは

・一組を4～5人程度に分け、カフェでお茶を楽しむようなリラックスした雰囲気の中、テーマに沿った対話ができるため様々なアイデアや意見を出しやすい。

・気持ちにゆとりをもって話し合いができ、自分の意見も尊重され、相手の意見に自然と耳を傾けられ一体感を持った対話ができる。

・メンバーの組み合わせを変えながら、4～5人単位の小グループで話し合いを続けることで、あたかも全員参加で話し合っているような効果を得られるといった効果が得られる。を理念に掲げております。

考察

参加議員の全員がシリウス図書館の感想についてはとても感動した。IT化が進んでいる。憩いの場として定借している。広報の方法も図書館だけでなく、市内四つの施設のイベント情報が掲載され、イベントも盛りだくさんに感じられる。市民の文化の象徴として完全に受け入れられ、仲間と集い、学ぶ生涯学習などでも本だけでなく施設、イベントなどの工夫もされているという感想でした。

さて、図書館と広報公聴の関係ですが、現在御殿場市では、議会だよりを図書館に置き、一組をバックナンバーにし、残りを配布しております。図書館と議会とのかかわり方はこの程度となっているのが現状です。新図書館が設立されると、来訪しやすい図書館となる予定です。図書館において議会のライブ配信や、セミナーを開催できる部屋やスペースにて、議会報告会の開催も考えられます。また、議会カフェの会場も新図書館のスペースを利用し、新図書館を通して議会や議員と市民の垣根を少しでも低くできたらと考えます。